

第5回

健康のため水を飲もう川柳

結果発表

応募総数

3,170句!!

Congratulations!

力作の川柳
皆様ありがとうございます

第5回健康のため水を飲もう川柳とは？

「水と健康」「水とからだ」「水とスポーツ」「水とお酒」「水道水」にまつわるエピソードを川柳にする「健康のため水を飲もう川柳」。

第5回の今回は、テレワークやマスクなどの新しい生活様式、世界に誇る日本の水道水などを取り入れて表現した3,170句が集まりました。

※募集期間：令和2年11月20日(金)～令和3年1月15日(金)

多数の応募の中から、見事「最優秀賞」に輝いた作品、惜しくもグランプリを逃したものの「入選」を果たした作品を発表いたします。

最優秀賞

賞状及び現金5万円

手洗いと
水分補給で
身を守り

制作意図

高橋 ゆき子さん(宮城県) / 会社員

手洗いで手の水分も失われがちです。水を飲むと皮膚にも水分が到着し、肌が潤うのだと聞きました。

今回選ばれたことはとても嬉しく、大変光栄に思います。

入賞

賞状及び図書カード1万円分

Congratulations!

マスク取り
水飲むときに
見た素顔

制作意図 田村 靖彦さん
(奈良県) / 自営業

今年から同僚となった人がマスクを外して水を飲んだ時、初めてその人のステキな素顔を見ました。昨年以來、私のような経験をされた人が多かったと思います。このことを川柳にしました。

水を飲む
習慣だけは
自粛せず

制作意図 石山 晶子さん
(大阪府) / 主婦

普段から水を飲むことを習慣として心がけてきましたので、そのことを川柳にしました。受賞できてとても嬉しいです。

密は避け
水は避けずに
もう二杯

制作意図 植木 征司さん
(北海道) / 学生

今年の流行語となった三密の「密」と「水」をかけ、あと二杯の水を飲むのを面倒がらないことを求めている。

講評



本委員会委員長
[東京大学名誉教授・
(一社)東京健康リハビリテーション
総合研究所所長]
武藤 芳照氏

川柳は、五・七・五の17文字に、季語や切れ字の制約なく、自由に表現できる日本独自の短詩型文学です。江戸期から始まり、今また静かに人気を博しています。

風刺・機知・ユーモア、時事ネタなどを巧みに取り入れてまとめ上げ、その句に接した人が、思わず「ニッコリ」「ニヤリ」としたり、笑い声を生む句が優れているとされています。

その川柳の力を活用して、「健康のため水を飲もう」の教育普及・社会啓発を図ろうと企画し、今年で6年目になりました。

新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の世界的大流行の最中にも関わらず全国から数多くの作品が寄せられました。

手洗い、三密、自粛、マスクなど、感染予防対策に関わる事柄を素材にしつつ、「健康のため水を飲もう」との関連をうまく表現した秀作ばかりです。

これらが、一人ひとりの笑顔に結びつき、未だ明るい展望を見出すことが困難なこの社会に、希望の光となれば幸いです。

